

つるさわ せいすけ
鶴澤 清介 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・三味線

〔芸歴〕

昭和48年 6月 二代鶴澤道八に入門
昭和49年 1月 鶴澤清介と名のり、朝日座において初舞台
昭和57年 鶴澤清治門下となる

〔受賞歴〕

昭和51年 1月 昭和50年度文楽協会賞
昭和52年 1月 昭和51年度文楽協会賞
昭和52年12月 国立劇場奨励賞 竹の間
昭和53年12月 国立劇場奨励賞 傾城恋飛脚
昭和55年 2月 国立劇場奨励賞 国性爺・楼門の代役
昭和56年 8月 昭和55年度因協会奨励賞 重の井子別れ
昭和57年 1月 第1回（昭和56年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞
昭和59年 9月 昭和58年度因協会奨励賞 天網島紙屋内
昭和62年 1月 大阪文化祭賞奨励賞（咲大夫の会）
平成 5年 1月 第12回（平成4年）国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成 6年 3月 第15回松尾芸能新人賞（邦楽）
平成 7年 7月 平成6年度因協会賞
平成11年 1月 第18回（平成10年）国立劇場文楽賞文楽大賞
平成13年 7月 平成12年度因協会賞
平成14年 1月 第22回（平成14年）国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成14年 3月 芸術選奨文部科学大臣新人賞 国性爺・楼門
平成14年 3月 大阪舞台芸術賞奨励賞
平成18年 1月 平成16年度因協会賞
平成19年 1月 平成17年度因協会賞
平成22年 3月 第29回（平成21年）国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成25年 3月 第32回（平成24年度）国立劇場文楽賞文楽特別賞
平成27年 3月 第34回（平成26年度）国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成28年11月 第51回大阪市市民表彰（文化功労部門）
平成29年 2月 平成28年度大阪文化祭賞優秀賞
平成30年 3月 平成29年度恩賜賞、日本芸術院賞
令和 2年 4月 紫綬褒章
令和 4年 3月 第41回（令和3年度）国立劇場文楽賞 大賞

きりたけ かんじゅ
桐竹 勘壽 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・人形

[芸歴]

昭和30年 二代桐竹紋十郎に入門、桐竹紋次と名乗る(10才)
昭和31年 2月 東京三越劇場で初舞台
昭和40年 二代桐竹勘十郎門下となり、桐竹勘壽と改名
平成 4年 桐竹紋壽預かりとなる
平成14年 8月 桐竹紋壽門下となり、桐竹紋豊と改名
平成21年 4月 桐竹勘壽と改名

[受賞歴]

昭和49年12月 大阪文化祭賞奨励賞
昭和50年 6月 昭和49年度因協会奨励賞
令和 4年 3月 第41回(令和3年度)国立劇場文楽賞優秀賞

よしだ たまや
吉田 玉也 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・人形

〔芸歴〕

昭和46年 7月	二代吉田栄三に入門、吉田栄光と名のる
昭和47年 4月	朝日座で初舞台
昭和50年 1月	吉田玉昇の預りとなる
昭和54年 4月	吉田玉男の預りとなり、吉田玉也と改名

〔受賞歴〕

昭和60年 8月	昭和59年度因協会奨励賞
平成 4年 1月	平成3年度文楽協会賞
平成19年 4月	第26回(平成18年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成22年 4月	第29回(平成21年)国立劇場文楽賞文楽優秀賞
平成30年 4月	第37回(平成29年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞
令和 3年 5月	(大阪府) 憲法記念日知事表彰 (文化関係・文化芸術)
令和 3年12月	令和3年度文化庁長官表彰
令和 4年 3月	第41回(令和3年度)国立劇場文楽賞 優秀賞

つるさわ せいき
鶴澤 清煖 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・三味線

[芸歴]

平成 5年 8月	鶴澤清治に入門
平成 8年 4月	文楽協会研究生となる
平成11年 3月	鶴澤清煖と名のる
平成11年 9月	国立劇場で初舞台

[受賞歴]

平成19年 3月	第35回（平成18年度）文楽協会賞
平成20年 9月	大阪文化祭賞奨励賞
平成24年 3月	第40回（平成23年度）文楽協会賞
令和 2年 3月	第39回（令和元年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞
令和 4年 3月	第41回（令和3年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞

よしだ たませ
吉田 玉勢 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・人形

[芸 歴]

昭和63年 5月 国立劇場文楽第13期研修生となる。
平成 2年 4月 吉田玉男に入門、吉田玉勢と名のる。
〃 国立文楽劇場で初舞台。

[受賞暦]

平成20年 4月 第36回（平成19年度）文楽協会賞
平成25年 9月 平成25年度大阪文化祭賞グランプリ ※団体賞
令和 4年 3月 第41回（令和3年度）国立劇場文楽賞 奨励賞

三代 ^{よしだ}吉田 ^{みのすけ}簗助 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・人形

[芸 歴]

昭和15年 6月	三代吉田文五郎に入門
昭和17年 3月	桐竹紋二郎と名のる
昭和18年 6月	絵本太功記「本能寺の段」の三法師丸が初役 於四ツ橋文楽座
昭和23年 8月	二代桐竹紋十郎の門下となる
昭和36年 6月	東京・三越劇場において、三代吉田簗助襲名 「ひらかな盛衰記」のお筆、「生写朝顔話」の朝顔、 「仮名手本忠臣蔵」の小浪で披露
平成 6年 6月	重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される
平成21年11月	文化功労者
平成24年12月	芸術院会員
令和 3年 4月	四月文楽公演をもって引退

[受賞歴]

昭和33年 1月	芸術祭奨励賞
昭和40年 2月	大阪府民劇場奨励賞
12月	大阪文化祭賞金賞
昭和44年 5月	国立劇場奨励賞
昭和45年 3月	芸術選奨文部大臣新人賞
昭和49年 2月	国立劇場奨励賞
昭和53年 2月	大阪府民劇場奨励賞
8月	国立劇場奨励賞
昭和59年 1月	大阪文化祭賞本賞
昭和61年 1月	第5回(昭和60年)国立劇場文楽賞文楽大賞
昭和63年11月	市民表彰
平成元年 1月	毎日芸術賞（第30回）
	第8回(昭和63年)国立劇場文楽賞文楽大賞
4月	大阪日日新聞水都祭賞
平成 3年 2月	大阪府民劇場賞
平成 4年 5月	大阪府知事表彰
平成 5年 3月	第14回松尾芸能賞優秀賞（伝統芸能）
平成 7年 3月	NHK放送文化賞
11月	大阪芸術賞
平成 8年 4月	紫綬褒章
平成 9年 7月	1996年度（第53回）日本芸術院賞
平成14年 1月	第21回(平成13年)国立劇場文楽賞文楽特別賞
平成18年 6月	フランスより、芸術文化勲章コマンドゥール
平成19年 4月	第26回(平成18年)国立劇場文楽賞文楽特別賞
平成29年 2月	平成28年度大阪文化祭賞優秀賞（団体賞）
令和 4年 3月	第41回(令和3年度)国立劇場文楽賞 特別賞

[著 書]

「頭巾かぶって五十年」（平成3年8月淡交社より出版）

「文楽の女：吉田簑助の世界」山川静夫と共著。

（平成6年4月淡交社より出版）

「吉田簑助写真集：文楽・女たちに魂をこめて」

（平成14年5月淡交社より出版）

「花舞台へ帰ってきた。」山川静夫と共著

（平成19年2月淡交社より出版）

「簑助伝」平成27年12月 （有diapositiveより出版）

とよたけ さきじゅ だゆう
豊竹 咲寿太夫 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・太夫

[芸 歴]

平成14年 4月	豊竹咲太夫に入門、文楽協会研究生となる
平成15年12月	豊竹咲寿太夫と名のる
平成17年 7月	国立文楽劇場で初舞台
令和 4年 3月	令和3年度文楽協会賞(太夫の部)

つるさわ せいこう
鶴澤 清公 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・三味線

[芸歴]

平成16年 4月 国立劇場文楽第21期研修生となる
平成18年 4月 鶴澤清介に入門、鶴澤清公と名のる
平成18年 7月 国立文楽劇場で初舞台

[受賞歴]

平成28年 4月 第35（平成27年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞
平成29年 2月 平成28年度大阪文化祭賞優秀賞 ※団体賞
平成30年 4月 平成29年度文楽協会賞（三味線の部）
令和 4年 3月 令和3年度 文楽協会賞（三味線の部）

きりたけ かんすけ
桐竹 勘介 芸歴 人形浄瑠璃文楽座・人形

〔芸歴〕

平成21年11月 三代桐竹勘十郎に入門、文楽協会研究生となる
平成22年 4月 桐竹勘介と名のり、国立文楽劇場で初舞台

〔受賞歴〕

平成30年 4月 平成29年度文楽協会賞(人形の部)
令和 2年 3月 令和元年度大阪文化祭賞＜第一部門＞ ※団体賞
令和 4年 3月 令和3年度文楽協会賞(人形の部)